

団塊の世代 7つの責務

NPO 法人『団塊のノーブレス・オブリージュ』理事長

櫻井一郎

早稲田大学校友会代議員

早稲田大学周辺商店連合会特別顧問

2014年には昭和22年から24年生れのいわゆる団塊の世代は全員が65歳以上となり、悪評の高い呼称の“前期高齢者”に仲間入りします。団塊の世代は戦後生まれで、つい数年前に生まれた世代に比すれば戦火にまみれる事もなく、日本の高度成長期の中で経済的にも恵まれた時代を享受してきました。その意味でも団塊の世代はこれからの人生で、例えささやかでも“社会への恩返し”を考えるときを迎えているのかも知れません。

このようなことについて、早稲田の学生街で、“第二の青春”を謳歌しつつ、自らの世代の責務とは何かについて、共に考えてみませんか。

例えば早大生と共のボランティア活動を行ったり、団塊世代が集い互いに勉強会を開いたりして、自己を高めあっていくことで、“人生の新たな道標”を見出していけるかも知れません。こうした刺激のある生活の中で、団塊の世代が社会にどんな責務を果すことができるか、例をいくつかあげて見たいと思います。

① 団塊世代が健康でいること、認知症にならないこと、そして介護の社会化の実現

2008年にロンドンで先進8カ国認知症サミットが開催され、認知症は各国共通の世界的な社会問題になっています。今、日本では65歳以上の1割が、75歳以上の3割が認知症となっていて、そのケアのための膨大なコストに社会の視線が注がれています。こうした事態を回避する意味でも、常に緊張感のある生活を送りたいものです。そしていずれやって来る「団塊世代の介護問題」についても、今からその方法を自ら考えていく必要があります。そして、その先には必ず訪れる“死”。

② 団塊世代による子育て世代への応援システムづくり

日本が少子高齢化時代に直面している現在、団塊ジュニア世代前後は団塊世代が子育てに携わっていた時代に比べ“共働き世帯”が圧倒的に増えています。こうした社会状況の中で、団塊世代の子育て経験を活かした“子育て支援活動”は、大いに期待される役割ではないでしょうか。

③ 団塊世代の年金問題をプラス思考で

次に団塊世代が受け取る年金問題。少子高齢化社会の中で、団塊世代が“逃げ切り世代”などと呼ばれないように、子や孫の世代の負担を軽減していくにはどうすればよいか、共に考えてみませんか。

④ 培った経験と知見を活用して、団塊世代は日本と世界の経済のサポーター役に

現役時代に培った経験と知見と人脈を活かして、現在の日本や、殊にアジア諸国の経済発展に団塊世代がどう寄与していけるか。これらについても団塊世代に期待されている役割の一つです。

⑤ 2020 東京オリンピック・パラリンピックを目標に、団塊世代は生涯現役主義で生きる

オリンピックには世界から大勢の外国人観光客が来日します。こうした外国人観光客の皆様にも、団塊の世代が英語や各国語で東京を始め、日本各地でボランティア・ガイドを務めてはいかかでしょうか。このような目的を持つことで、新たに語学を学ぶという“生きがい”が生まれ、脳の活性化にもつながります。そしてこのことは認知症対策にも有効となります。

⑥ そして一案として、全国の団塊世代一人ひとりがわずかな金額の「ふるさと納税」で、東日本大震災被災地を世界的な観光地に！ 『日本漁師街道』プロジェクト参照

—東日本被災地の真の復興には、『一枚の大きな絵』が必要 「日本漁師街道」構想—

★世界に誇る日本の食と、美しい自然で、世界の観光客を東日本で“おもてなし”。殊に世界三大漁場一つである三陸沿岸に行かないと食べられない海の恵みを、世界に情報発信していきます。

★そして、福島野山には復興のシンボルとして日本の国花である“桜”を植樹して、桜で埋め尽くされた「国立福島桜公園」構想。私案の構想「日本漁師街道」プロジェクトについてご笑覧下さい。

東日本各地が元の“姿”に戻ることに留まらず、日本全国の約 700 万人の団塊世代が結集して、この東日本大震災の被災地に集中してふるさと納税をすれば、一人 2 千円程度の金額で、「団塊ドリーム」とも言うべき大きなプロジェクトを実現することができます。このふるさと納税の使い道には縛りはありません。現在復興について国が予算措置を行っている膨大な金額は、土地のかさ上げとか、堤防の再構築など使途が限定されていて、被災地の市町村が独自の使い方はできません。検索 dankai.jp

⑦ 団塊世代は日本の歴史・伝統文化と日本の食文化の伝道師に

日本の文化・伝統を世界に発信し、世界から共感を得ていくことが、日本の生きる道

最後に、団塊世代が伝道師となり、日本の歴史・伝統文化や日本の食文化を次世代に継承していくことについて。国連教育科学文化機関（ユネスコ）の政府間委員会は 2013 年 12 月 4 日、日本政府が提案していた「和食 日本人の伝統的な食文化」の無形文化遺産への登録を決定しました。

私たちには祖先がいて己が存在する。団塊の世代には、この“日本のこころ”“日本人の DNA”を子孫に受け繋いでいくという責務を、もう一度立ち止まって考えてみるものが求められています。人には“過去”があって“現在”があり、そして“未来”がある。若い世代が自己のアイデンティティをしっかりと受け止めることができるよう、“日本人とは何者なのか”を認識するための、団塊世代がその伝道師となる正念場を迎えている時代とも言えます。

こうして①から⑦までのことについて団塊世代が取り組んで行けば、団塊世代は社会や次世代に物心共に貢献することができます。結果として、団塊世代は“恵まれた時代に生まれた世代としての責務”を果たせこととなります。そして己の人生を総括することで、心の充足感が得られるのではないのでしょうか。

人生「終わりよければ、すべてよし！」

◆活動など詳細は dankai.jp で検索して下さい。 sakurai.dankai@gmail.com 携帯 090-8851-0700

●櫻井一郎 略歴

1947年1月1日生まれ。早稲田大学近くの新宿区立戸塚第一小学校、同戸塚第一中学校、都立赤城台高校を経て、1966年早稲田大学政治経済学部経済学科入学・卒業。

生粋の“ワセダっ子”。実家はグラント坂下角（金城庵斜め前）のコンパと食事の店「松風」。卒業後、実家を継ぎ、その後独立。

1979年デリカショップを起業。1987年早稲田大学国際部米国人留学生を講師に英会話教室を起業。1997年早稲田大学から委託を受け、早稲田大学オープンカレッジ・パソコン講座を運営。2011年病氣療養のため同講座閉鎖。

闘病中の2011年、東西線早稲田駅横で、東日本大震災復興支援の被災地物産販売店「絆」を起業するも、病気が悪化。2012年10月右足大腿部より切断、同店を廃業。現在、車椅子生活を余儀なくされる。

★早稲田大学周辺商店連合会について

1982年早稲田大学創立100周年を機に、大学周辺の7つの商店街により編成、事務局長に就任。以来、30年間努めるも病のため後進に禅譲。この間、地域と大学の架け橋となり、諸事業を実施。1989年米国西海岸大学街を大学関係者と共に視察、1991年同東海岸大学街視察。1999年9月大隈講堂を始め4日間早稲田キャンパスを会場に、国際高齢者年記念「エイジング・メッセ早稲田」を実施・実行委員長を務める。2000年9月第一回「早稲田・地球感謝祭」を早稲田キャンパスで企画・実施(実行委員長)、今年で15回を迎える。2011年東日本大震災被災地から借用した大漁旗130枚を早稲田大学周辺フェンス等に掲げ、犠牲者の鎮魂と被災者へのエールを送る。2012年から気仙沼市と提携し、被災地支援のイベント「早稲田かつお祭り」を大学や商店街を会場に企画・実施。

同年早稲田大学鎌田総長より地域と大学の架け橋となり尽力した旨の感謝状を授与される。

★「団塊プロジェクト」とNPO法人『団塊のノーブレス・オブリージュ』について

1992年。団塊世代の高齢化社会勉強会を実施。1995年早稲田大学国際会議場で連続シンポジウム「団塊世代と日本の高齢化社会」を6回に渡り実施、延べ1200人が参加。1996年、社会人学習サークル「早稲田カルチュラタン」を発足。2005年団塊世代の高齢社会を考える早稲田大学オープンカレッジ『団塊のノーブレス・オブリージュ』講座を実施。講師陣には、舛添要一東京都知事、弘兼憲史氏、立松和平氏、現慶応大学塾長清家篤氏、福岡政行氏、樋口恵子氏、加藤仁氏、等が登壇。受講生は100人を越える。翌年2006年、同講座受講生と共に東京都認証NPO法人『団塊のノーブレス・オブリージュ』を設立。

現在に至る。

★ワセダー家

戦死した伯父(理工卒後、中島飛行機に勤務・昭和20年敗戦の翌日、フィリピンミンダナオ島で戦死)、自分(経済)、長男(政治)、二男(経済)、長男の嫁(法) 因みに、父は陸軍士官学校卒・敗戦時陸軍大尉